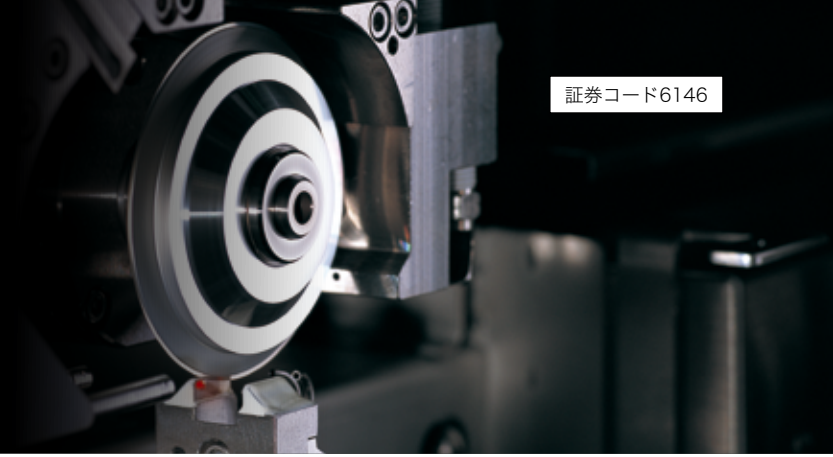
DISCO
Kiru·Kezuru·Migaku Technologies

CUTTING EDGE

カッティングエッジ

75期事業のご報告

平成25年4月1日～平成26年3月31日



証券コード6146

HP
会社概要
株式情報

社長メッセージ

多様化する顧客ニーズに対応し、当期純利益は過去最高を更新しました。これからも新たなアプリケーションを創出し、収益性の向上に努めてまいります。

事業環境・業績

2013年度においては、上期にスマートフォンやタブレット端末などのモバイル機器需要が拡大し、当社製品の堅調な出荷が続きました。下期になると、従来では不需要期にあたる第3四半期に、欧米向けを中心として高付加価値な製品の販売が伸長したため、売上高の落ち込みは例年に比べ小幅に留まりました。このような事業環境により連結売上高は過去最高となりました。

損益面については、積極的な研究開発活動などにより販売管理費が前年度に対して膨らんだものの、売上高の増加や円安進展、製品構成の変化などにより粗利率が大きく改善し、営業利益は大幅な増益となりました。また、純利益については、税負担率の低下を主因として過去最高を更新し、1株当たり配当金は年間で90円とさせていただきました。

今後の見通し

2014年度においても、モバイル機器が半導体需要をけん引する業界構図は変わらず、中でも特に新興国を中心に安価なモデルの数的拡大が期待されています。これらの生産設備拡大のニーズに合わせ、本年度も積極的な販売活動を行ってまいります。

半導体チップの性能向上については、前工程の微細化技術が限界に近づきつつあることから、後工程におけるパッケージング技術の革新に大きな期待が集まってきております。このような技術トレンドに対し、高い普遍性を有する当社の『高度なKiru・Kezuru・Migaku』技術を展開していくことで、多様化するニーズに応える付加価値の高いアプリケーションを創出し、収益性の向上に努めてまいります。

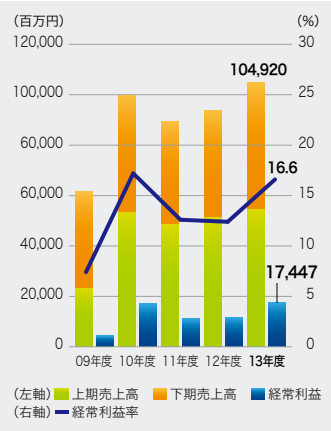
株主の皆様におかれましては今後とも一層のご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

2014年6月

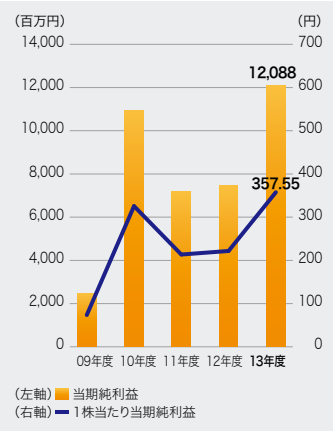
代表取締役社長　**関家一馬**

財務ハイライト

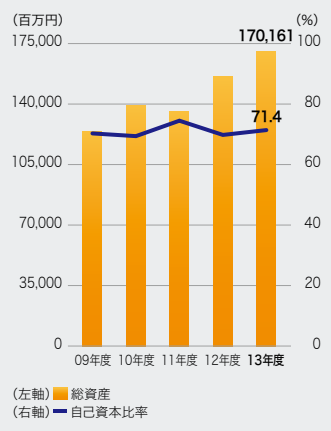
売上高・経常利益・経常利益率



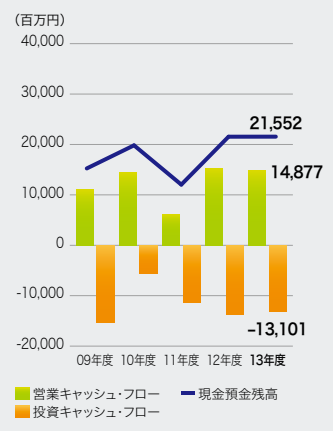
当期純利益・1株当たり当期純利益



総資産・自己資本比率



キャッシュ・フロー



当期の概況

当期(2013年4月1日から2014年3月31日まで)においては、モバイル機器に用いる半導体・電子部品向けに、高機能化・小型化が求められることから、レーザソーや薄化用グラインダなどの高付加価値製品の売上が伸長しました。消耗品である精密加工ツールは販売数量の増加に加え、為替の影響もあったことから売上を大きく伸ばしました。

利益については、人件費や研究開発費を中心に販売管理費が増加しましたが、製品構成や為替の影響などによりGP率が大きく改善したことから、営業利益、経常利益は大幅な増益となりました。また、当期純利益は税負担率が低下したこともあり過去最高益となりました。

以上の結果、当期の業績は前期から増収増益となる、売上高1,049億20百万円、営業利益173億53百万円、経常利益174億47百万円、純利益120億88百万円となりました。

■財政状態

当期末の総資産は、前期末と比べ144億94百万円増加し、1,701億61百万円となりました。これは、主に売掛金の増加や桑畑工場新棟の建設に伴い有形固定資産が増加したためです。

負債は、前期末と比べ15億93百万円増加し、467億4百万円となりました。純資産は、前期末と比べ129億円増加し、1,234億56百万円となり、自己資本比率は前期末比1.6ポイント増となる71.4%となりました。

■キャッシュ・フロー

営業活動では148億77百万円の資金増加、投資活動では131億1百万円の資金減少だったことからフリー・キャッシュ・フローは17億75百万円の資金増加となりました。

これは、営業活動による資金増加が高水準だったものの、投資活動において桑畑工場新棟の建設で多額の資金支出があったためです。

財務活動では、主に配当金の支払によって21億98百万円の資金減少となりました。

これらの結果、当期末の資金残高は215億52百万円となりました。

通期の連結業績予想

スマートフォン・タブレットPC機器関連需要は旺盛で、半導体メーカ各社の設備投資は高水準で推移するものと思われます。それに伴い3期連続の増収増益を予想しており、配当については1株当たり101円(過去最高額)を見込んでおります。

2015年3月期　(金額の単位：百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
107,700	18,800	19,100	13,600	400.98円

ディスコの企業理念

3つのコア技術を深めることで、ディスコは産業と暮らしに貢献していきます。

「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術」とは

ディスコのビジネステーマを指しています。人類に欠かせない普遍的な技術である「切る」「削る」「磨く」という事業領域において、ディスコは世界のオンリーワン企業でありたいと考えています。あえてローマ字で表記しているのは、これらの分野でディスコの技術が世界標準となり、日本語でそのまま通用するようなレベルを目指すという、強い思いが込められているからです。

「遠い科学を身近な快適につなぐ」とは

ディスコの社会的使命（ミッション）を意味しています。日々進歩していく科学技術を、ディスコの「高度なKiru・Kezuru・Migaku技術」によって、人々の暮らしの豊かさや快適さに帰結させていきたい、という考えを表現しています。

ディスコが追い求める成長とは

企業の成長をどのように定義するかによって、経営の方向性は大きく変わります。ディスコの「成長」とは売上やシェア、規模の拡大などに依らず、2つの基準によって評定されています。ひとつはミッションの実現度が高まり、社会により大きく貢献ができているか、もうひとつはお客様・従業員・サプライヤ・株主など、すべてのステークホルダとの価値交換性が向上しているか、です。